

平成24年の3月議会において、川越市議会で初めてセクシャルマイノリティについて取り上げてからの7年半で、この問題を取り巻く環境も大きく変わりました。意識が変わり、取り組みが変わりました。しかし、それでもまだ、多くの方が悩むことの無い、自分ではどうすることもできない性別の問題で、生きにくさ・暮らしにくさを感じているのが現状です。

今回の一般質問でも何点かに絞って現状を確認し、改善への提言をさせていただきました。

7年前に設置の提言をした相談窓口には、年間3件～6件の相談がある事を確認しましたが、現状の行政の相談窓口に相談しようと思う方は少ないようです。

## ☆提言① 子供たちが学校に行きやすい環境づくりを提言

「性的少数者は私のクラスにはいない」、「私はそうした悩みを抱えている子どもを受け持ったことがない」といった反応が珍しくなかった7年半前。今回の質問で、性的少数者の児童生徒はどのくらいいると認識しているかを、現状認識が出発点との思いで、あえて確認しました。8.9%という民間の調査結果を挙げつつ、在籍児童生徒の中にも少なからずいるとの認識を示しました。

次に、生徒から相談を受けた際の学校側の体制を確認しました。答弁では、最初に相談を受けた者だけでなく、学校にサポートチームを作り校内支援委員会や外部機関等を含めたケース会議を開催するなど、組織的に対応している。さらに、教職員間の情報共有についても十分な配慮を行い、支援体制を整えていると答弁し、当事者の児童生徒に対しては、スクールカウンセラーなどの心理の専門家と面談する機会を設けているとのことでした。



完璧な体制を構築しているように感じているのかもしれませんが、この体制下で、傷つき、悲しい思いをしている児童生徒がいることを認識して欲しいと訴え、教職員の支援スキルの向上と更なる取り組みの充実を教育長に求めました。

教育長は、一人ひとりの人格を尊重し、いかなる理由でも差別を許さない適切な人権教育の推進が悩みや不安を抱える児童生徒に対する支援の土台となるとの考えを示しました。

## 制服や水着の選択について

各学校の制服について、スカートかスラックスかを原則自由に選べるようにすべきと提言。さらに、水着もラッシュガードのような男女共用水着タイプを選択できるように提言しました。各学校に紹介するとともに、性の多様性が尊重されるよう情報共有と共に周知に努めると答えました。

しかし、上記の方法では詰襟の制服に対応できないことや、市内での転入室や価格面での負担軽減などのメリットも考え、市内中学校統一制服の導入を提言しましたが、各学校への愛着、誇り、地域の所属意識等への影響があり難しいと一蹴されました。皆さんはどう思われますか？

## ☆提言② 人権施策全体の方針や計画の策定を提言

現在、性的少数者に関わる問題が示された計画は、川越市男女共同参画基本計画の中に、性的少数者への理解促進が明記されているのみですが、本市では、次期川越市男女共同参画基本計画の中で性的少数者への取り組みを強化するため、主要な取り組みの一つとして位置づけたいと答弁しました。



しかし、「川越市男女共同参画基本計画」は、まさに、「男」「女」間の平等を目指す計画であり、この計画ほど性別にこだわった計画書は無いと読めばよむほど感じます。性的少数者の問題を「人権問題」だと考えている私には、性的少数者に関する取り組みを進める上で、川越市には未だにない人権施策全体の方向性や方針を示した計画等の必要性を訴え、考えを問いました。答弁では、国・県・他市の状況等も参考に調査研究していくと答えました。

